

1.3. 土壌及び地盤の状況

(1) 土壌の状況

1) 土壌の区分及び分布状況

調査区域における土壌の状況は、図 4-1-16 に示すとおりです。

調査区域には、山地部を中心として乾性褐色森林土壌（赤褐色系）や褐色森林土壌（赤褐色系）、赤色土壌が分布しています。その他の台地・低地部では、主に黄色土壌、細粒グライ土壌が分布しています。

2) 土壌汚染の状況

調査区域における土壌中ダイオキシン類濃度の測定地点は図 4-1-17 に、測定結果は表 4-1-34 に示すとおりです。

測定は 1 地点で行われており、測定結果は環境基準を達成しています。

また、調査区域には「農用地の土壌の汚染防止等に関する法律」（昭和 45 年 12 月 25 日法律第 139 号）に基づき指定された農用地土壌汚染対策地域はありません。

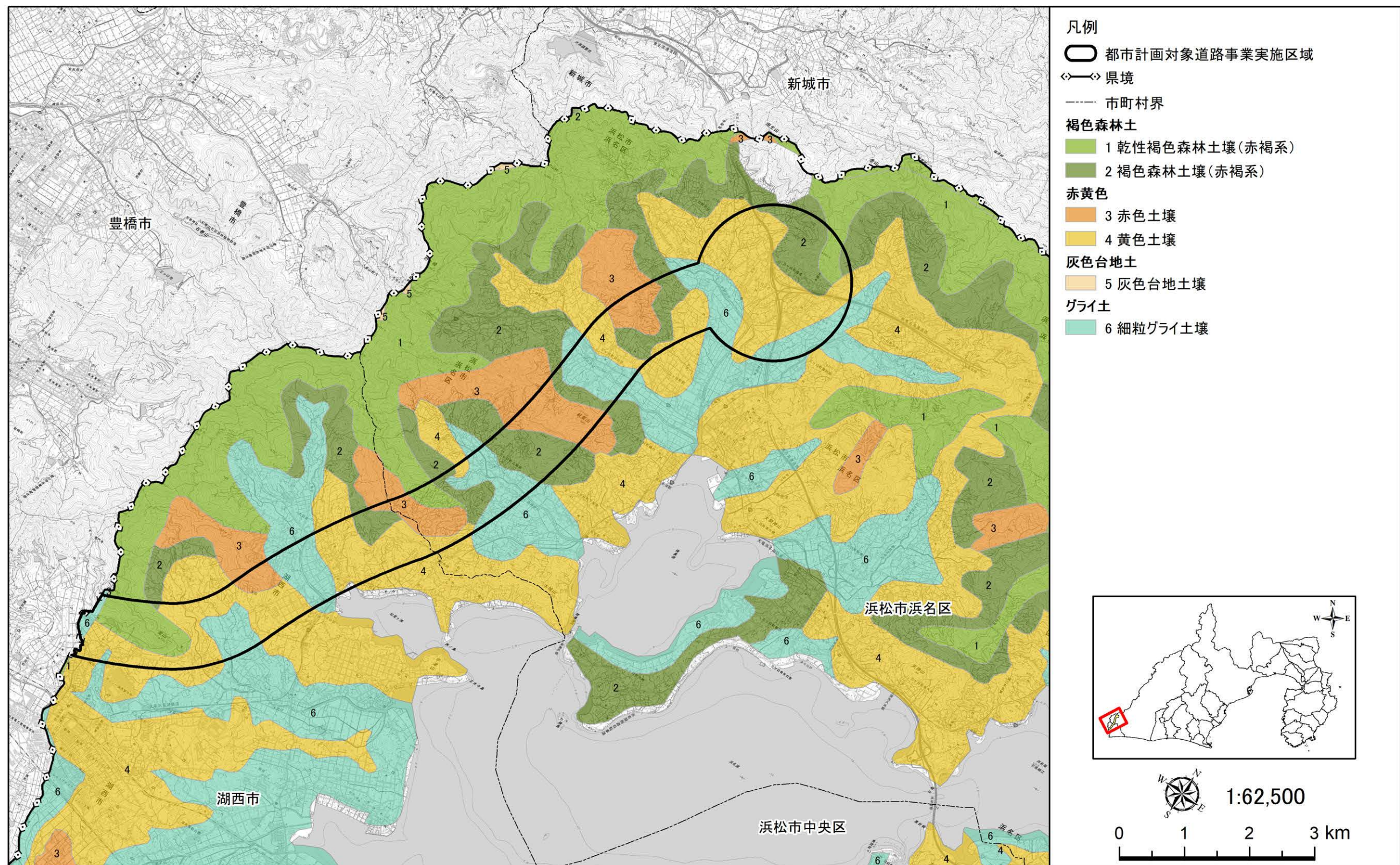
表 4-1-34 土壌中ダイオキシン類濃度測定結果(令和 2 年度)

No.	市	測定地点	調査結果	環境基準	環境基準 達成状況
			(pg-TEQ/g)	(pg-TEQ/g)	達成・非達成
1	浜松市	浜松市立三ヶ日西小学校	0.0049	1,000	○

注1) 地点番号は図4-1-17に対応する。

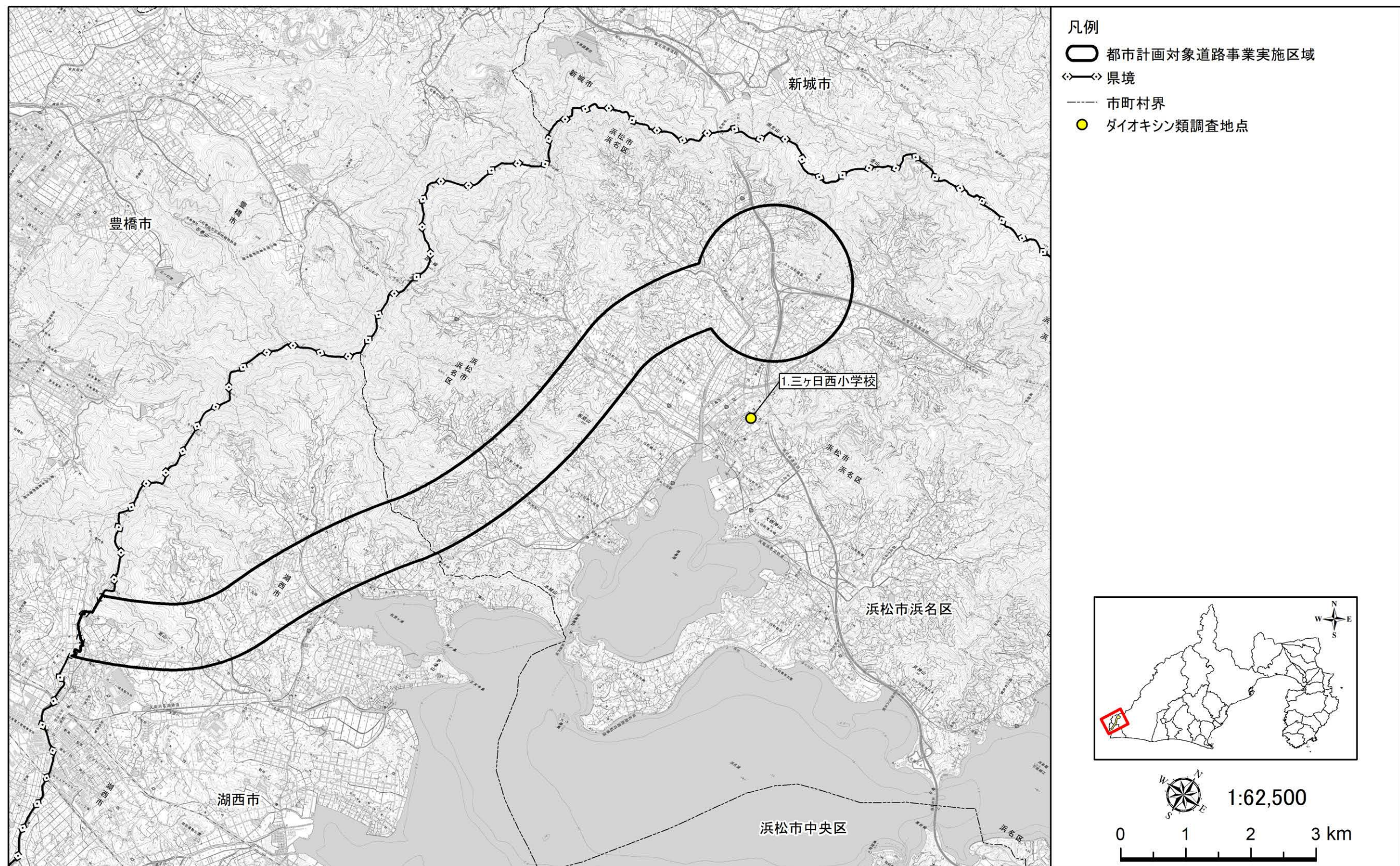
注2) 令和3、4年度に調査区域内で測定を実施していないことから、令和2年度の測定結果を示した。

出典：「令和2年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）



出典：「20万分の1都道府県土地分類基本調査 土壌図」（国土交通省国土政策局国土情報課 GIS ホームページ）

図 4-1-16 土壌の状況



出典：「令和2年度浜松市の環境測定結果」（浜松市環境部環境保全課）

図 4-1-17 土壤中ダイオキシン類濃度の測定地点位置図

(2) 地盤の状況

1) 地盤の状況

「平成 29 年版 環境白書（詳細版）」（平成 29 年 12 月、静岡県）によると、静岡県で平成 28 年度に実施した西遠地域における地盤沈下調査の結果、最大沈下量は 0.9mm/年であり、地盤沈下はほとんど見られていません。

2) 地盤沈下の状況

調査区域において、地盤沈下の調査は行われていません。

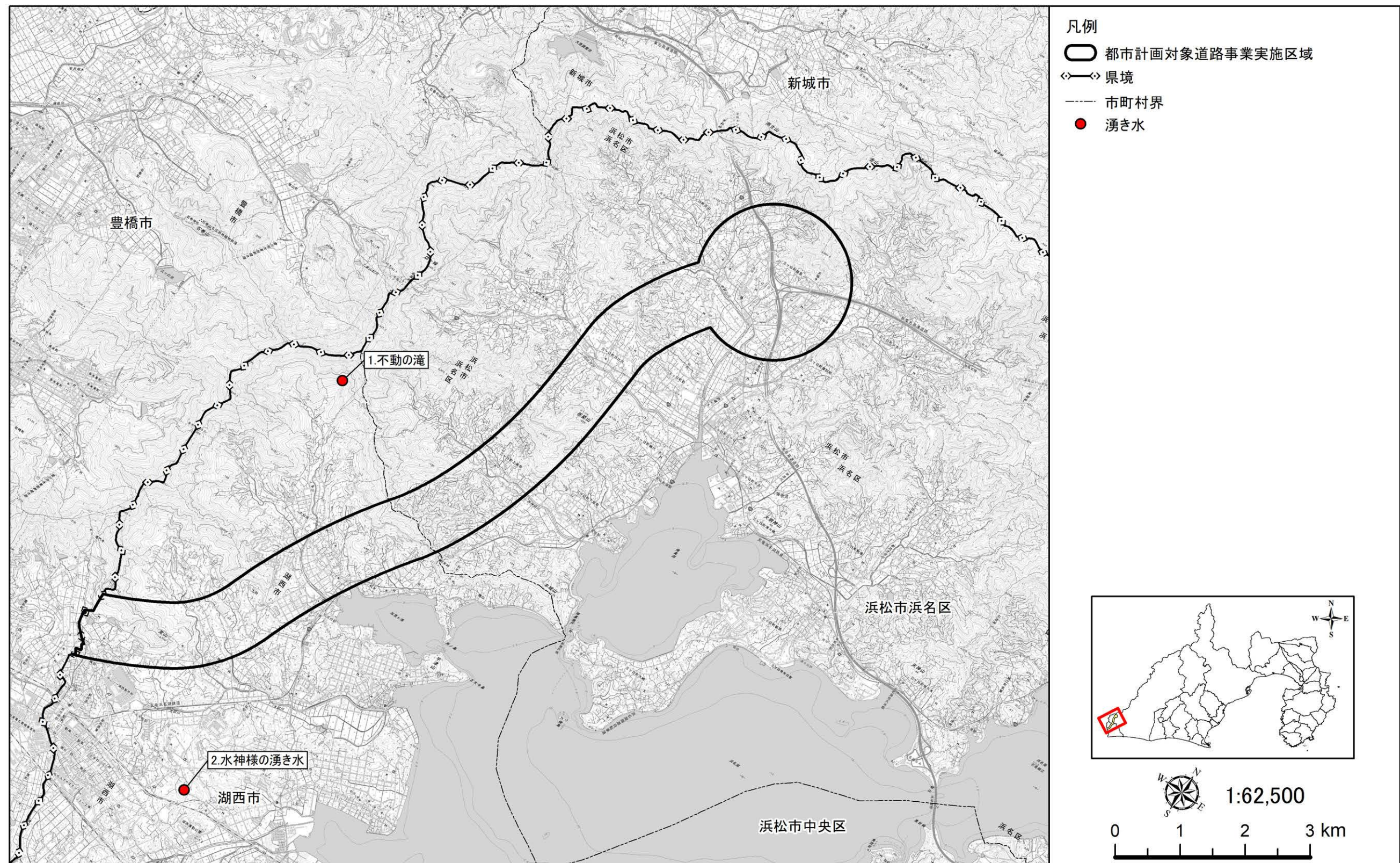
3) 地下水の分布

調査区域における湧き水の分布状況は、表 4-1-35 及び図 4-1-18 に示すとおりです。調査区域において 2 箇所の湧き水が確認されています。

表 4-1-35 湧き水一覧

No.	河川名	所在地
1	不動の滝	静岡県湖西市大知波
2	水神様の湧き水	静岡県湖西市岡崎

出典：「静岡県の湧き水」（閲覧：令和5年9月、静岡県ホームページ）



出典：「静岡県の湧き水」（閲覧：R5年9月、静岡県ホームページ）

図 4-1-18 湧き水分布図

4) 地下水位の状況

調査区域における地下水位の調査地点は図 4-1-19 に、調査結果は表 4-1-36 に示すとおりです。

平成 19 年度から令和元年度にかけて 9 地点で調査が行われており、自然水位は 2.33 ～32.30m となっています。

調査区域には、「工業用水法」（昭和 31 年法律第 146 号、最終改正：平成 26 年 6 月 13 日法律第 69 号）に基づく指定地域及び「建築物用地下水の採取の規制に関する法律」（昭和 37 年 5 月 1 日法律第 100 号、最終改正：平成 12 年 5 月 31 日法律第 91 号）に基づく指定地域に含まれる市町は存在しません。

なお、浜松市の一部は「静岡県地下水の採取に関する条例」（昭和 52 年 8 月 1 日条例第 25 号、最終改正：平成 30 年 3 月 28 日条例第 17 号）に基づく規制区域等に該当します。また、浜松市では「浜松市旧細江地域自治区及び旧三ヶ日地域自治区地下水の採取の適正化に関する条例」（平成 17 年 6 月 1 日浜松市条例第 141 号、最終改正：平成 24 年 3 月 23 日浜松市条例第 6 号）を定めており、調査区域の一部は同条例に基づく適正化地域に該当します。湖西市は「静岡県地下水の採取に関する条例（昭和 52 年 8 月 1 日条例第 25 号）」に基づく規制区域等には該当しませんが、自主規制区域（浜名湖西岸）として、揚水設備設置の届出や取水基準の遵守等、県条例区域とほぼ同様の規制が行われています。

表 4-1-36 地下水位調査結果

No.	市	井戸の所在地 ^{注1)}	使用目的 ^{注2)}	地盤標高 (m)	自然水位 (m)	調査年度
1	浜松市	三ヶ日津々崎	工業用	3.00	2.33	H20 ^{注3)}
2		細江町	工業用	4.00	2.82	H19 ^{注3)}
3	湖西市	アスモ 1 号	工業用	87.00 ^{注5)}	8.83 ^{注6)}	R1 ^{注4)}
4		アスモ 3 号	生活用	78.00 ^{注5)}	7.86 ^{注6)}	R1 ^{注4)}
5		岡崎	農業用	37.10	32.30	H24 ^{注3)}
6		利木	その他	75.00	16.83	H20 ^{注3)}
7		白須賀	生活用	3.00	7.05	H20 ^{注3)}
8		太田	その他	2.00	2.68	H19 ^{注3)}
9		梅田	農業用	31.00	25.60	H19 ^{注3)}

注1) 井戸の所在地が公表されているアスモ1号、アスモ3号について、図4-1-19に位置を図示した。その他の井戸については、非公表のため図示していない。

注2) 使用目的の「その他」は、生活用、都市用、工業用、農業用以外の使用目的を指す。

注3) 調査年度は「全国地下水資料台帳」に記載の調査年度とした。

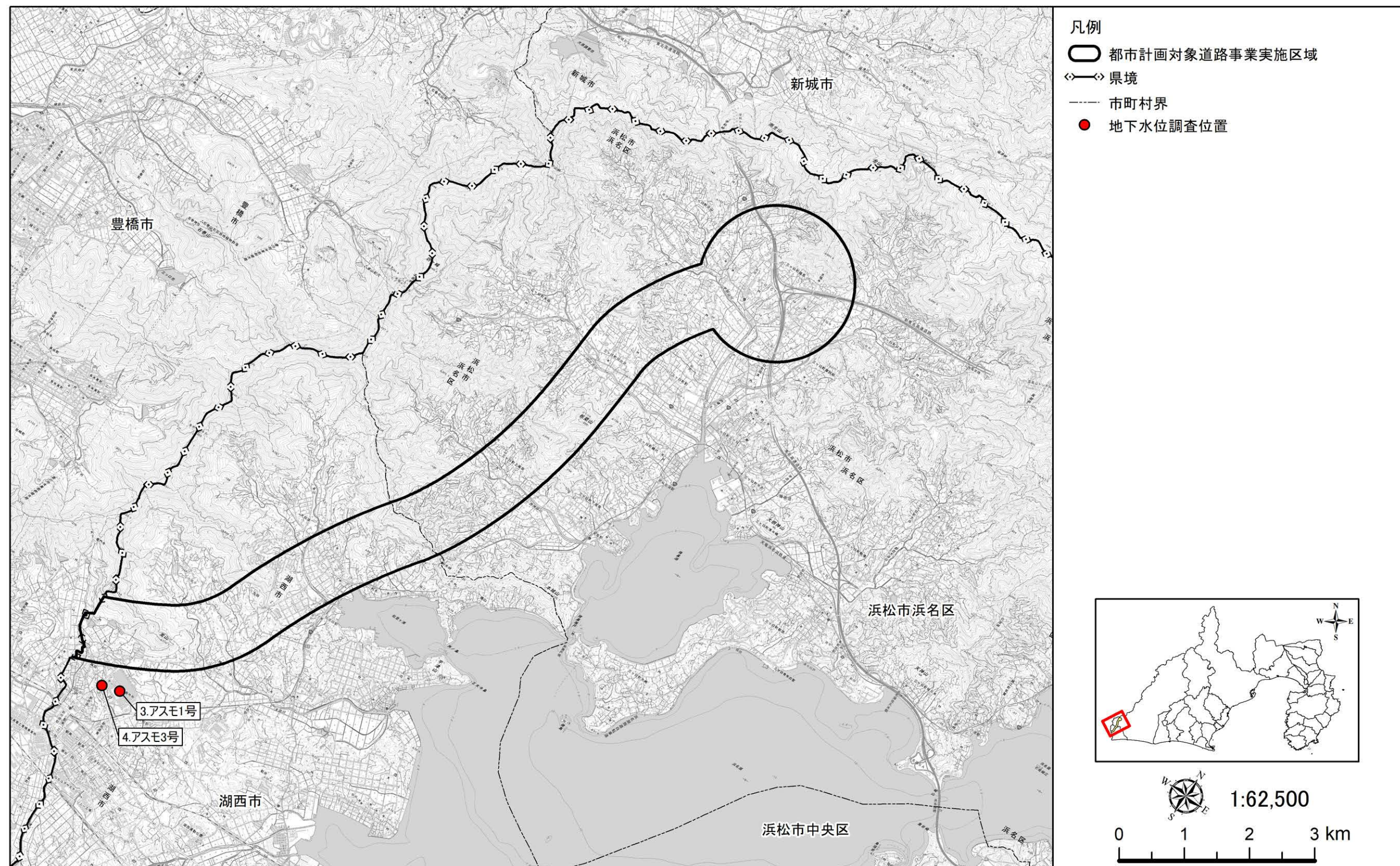
注4) 調査年度は「地下水調査」（静岡県ホームページ）に記載の調査年度とした。

注5) 管頭標高

注6) ポンプ停止後1時間以上経過後に観測

出典：「全国地下水資料台帳」（国土交通省国土政策局国土情報課ホームページ）

「地下水調査」（静岡県ホームページ）



注1) 井戸の所在地が公表されている No.3 アスモ1号及び No.4 アスモ3号について位置を図示した。その他の井戸については、非公表のため図示していない
 出典：「地下水調査」（静岡県ホームページ）

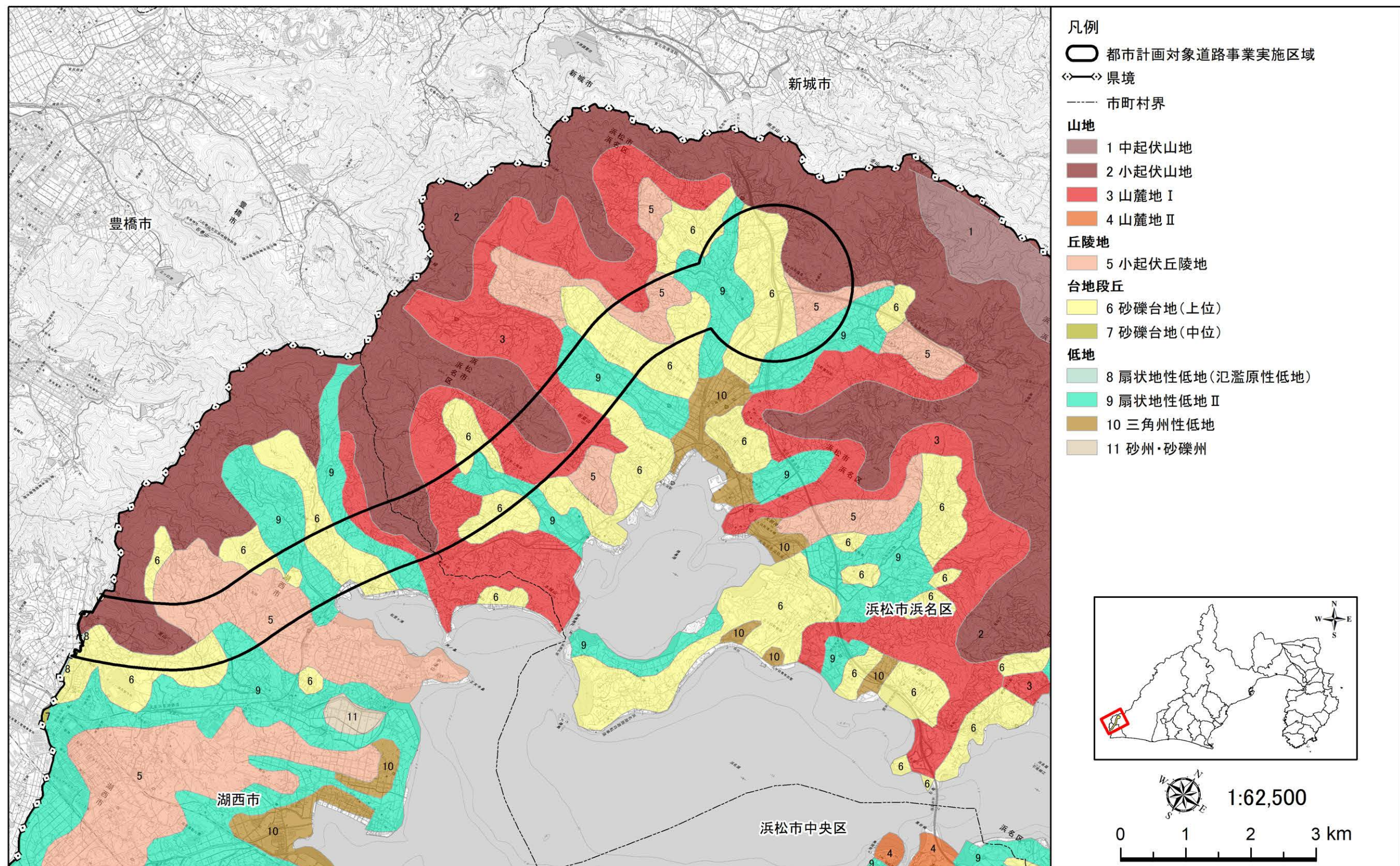
図 4-1-19 地下水位調査位置図

1.4. 地形及び地質の状況

(1) 地形及び地質の状況

調査区域における地形の状況は、図 4-1-20 に示すとおりです。事業実施区域の西側、静岡県と愛知県の県境付近には弓張山地が存在し、その周囲は主に小起伏山地、山麓地Ⅰ、小起伏丘陵地が広く分布します。浜名湖に注ぐ河川周辺には扇状地性低地Ⅱ、三角州性低地が分布します。

調査区域における地質の状況は、図 4-1-21 に示すとおりです。調査区域の基盤岩類は硬質な中～古生層で、付加帯に属する秩父帯コンプレックス(混成岩類(砂岩、泥岩、チャート、石灰岩など)：凡例Ⅱl、Ⅳv、Ⅰc等)で構成され、基本的に東北東-西南西方向の帯状の地質分布を示します。事業実施区域の北東側には秩父帯と断層で接して付加帯の三波川変成岩類(御荷鉾緑色岩類：凡例 Gm)が分布します。浜名湖に近い山裾や湖西市側の台地や扇状地では砂礫を中心とした更新世の地層(凡例 Nh、Mg)が分布しています。河川沿いには軟弱地盤とされる完新世の地層(沖積層：凡例 a 等)が分布しています。



出典：「20万分の1都道府県土地分類基本調査 地形分類図」（国土交通省国土政策局国土情報課 GIS ホームページ）

図 4-1-20 地形分類図

(2) 重要な地形及び地質の状況

重要な地形及び地質の概要は表 4-1-37 に、位置は図 4-1-22 に示すとおりです。

調査区域に分布する法令、条例等によって定められた重要な地形及び地質として、浜名湖があります。

また、「第 1 回自然環境保全基礎調査すぐれた自然調査」(昭和 51 年、環境庁)、「日本の地形レッドデータブック第 2 集ー保存すべき地形ー」(平成 12 年 3 月、小泉武栄、青木賢人)及び「わが国の失われつつある土壌の保全をめざしてーレッド・データ土壌の保全ー」

(平成 12 年 3 月、日本ペトロロジー学会)に掲載されている、または(仮称)浜松湖西豊橋道路計画段階環境配慮書(令和 3 年 12 月)に対する静岡県知事意見において重要性が指摘される等、学術上または希少性の観点で重要と判断される地形及び地質として、石灰岩・化石産地(洪積臥骨、哺乳類)、チョコレート褐色土、ナウマンゾウ化石産出地等があります。

なお、調査区域内には、「日本の地形レッドデータブック第 1 集ー危機にある地形ー」(平成 12 年 12 月、小泉武栄、青木賢人)に掲載された危機にある地形は存在しません。

表 4-1-37 重要な地形及び地質の概要

No	名称	概要	重要度の分類基準	出典
1	石灰岩・化石産地 (洪積臥骨、哺乳類)	「第 1 回自然環境保全基礎調査すぐれた自然調査」に掲載されている。	②a	1
2	チョコレート褐色土	チョコレート褐色土の母岩である蛇紋岩そのものが局地的に分布しているため、この土壌の分布も極めて局地的かつ小面積である。チョコレート褐色土の属する暗赤色土壌群の成因については他の土壌型と比べて未だ十分に研究されておらず、その保存は学術上極めて重要である。	②b	2
3	ナウマンゾウ化石産出地	計画段階環境配慮書に対する静岡県知事意見において、大型哺乳類等の化石が発掘された貴重な地域(浜松市中央区佐浜町(ナウマンゾウの模式標本発掘地)や浜名区三ヶ日町只木など)の重要性が指摘されている。	②a	3
4	灰色低地土	浜名湖北岸に位置する当該地域は、比較的狭い地形内に地形連鎖が存在し、各種土壌の分布や生成の観察・研究に好適なフィールドである。土壌母材もチャート・石灰岩・蛇紋岩・河成砂礫層等と多様である。近年、該当地域は樹園地の基盤整備、道路や市街地の拡大等により観察しやすい断面(露頭)が少なくなりつつある。	②b	2
5	赤色土、暗赤色土、黄色土		②b	2
6	褐色森林土		②b	2
7	浜名湖	静岡県指定の名勝であり、「日本の地形レッドデータブック第 2 集ー保存すべき地形ー」に掲載されている。汽水湖としては太平洋側最大の湖であり、引佐細江・猪鼻湖・庄内半島などの内湖や岬が複雑な溺れ谷地形をなす。	①, ②a	4,5

注1) 地点番号は図4-1-22に対応する。

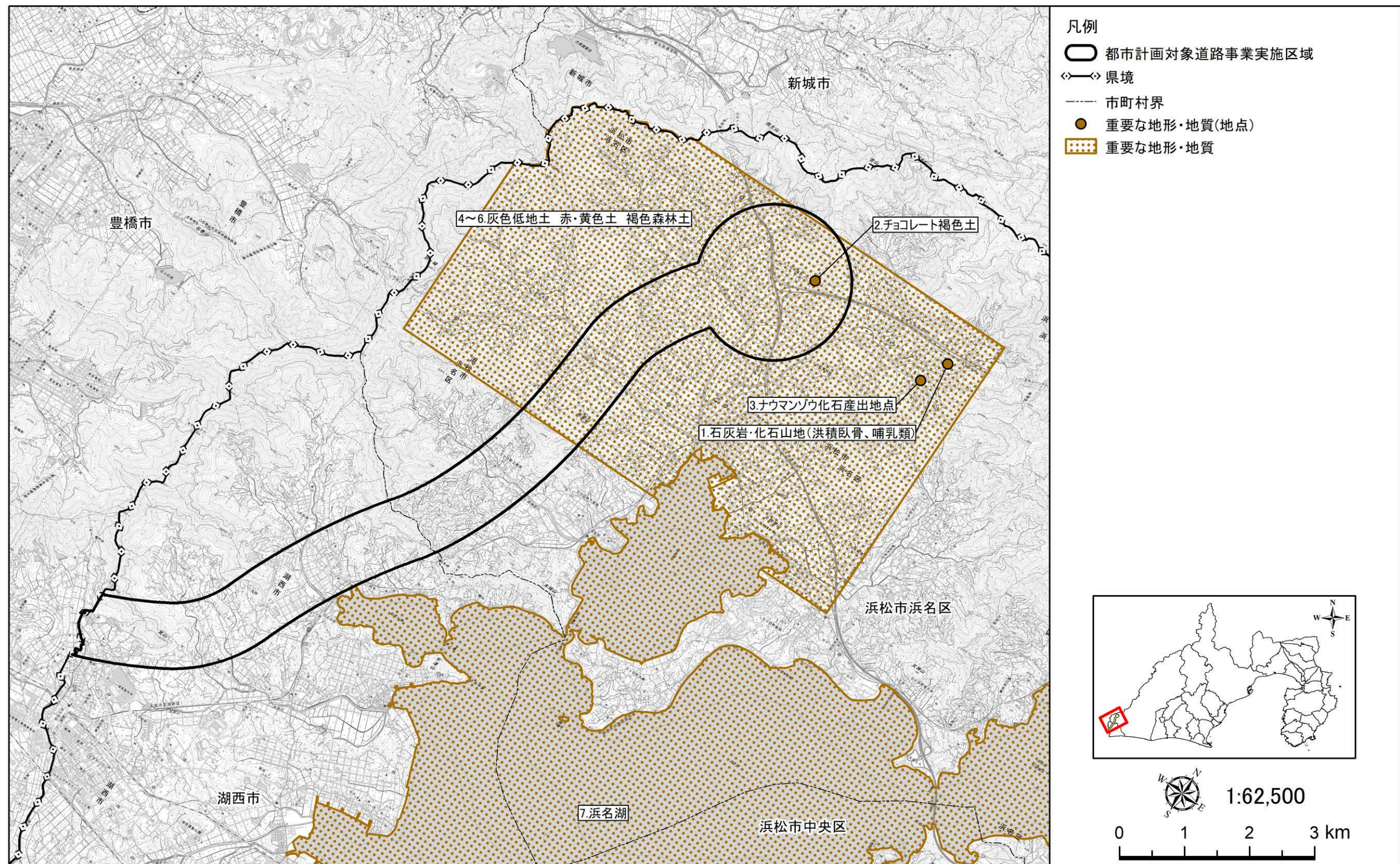
重要度の分類基準：

- ①法律、条例等によって定められた重要な地形及び地質
- ②法令等の規定はないが学術上又は希少性の観点で重要と判断される場合のある地形及び地質
 - a: 公的機関によって定められた重要な地形及び地質
 - b: 学会等で定められた重要な地形及び地質

- 出典：1. 「第1回自然環境保全基礎調査 すぐれた自然調査」(昭和51年、環境庁)
2. 「わが国の失われつつある土壌の保全をめざしてーレッド・データ土壌の保全ー」(平成12年3月、日本ペトロロジー学会)
3. 「浜名湖周辺地域産出のナウマンゾウ化石 静岡地学第87号(2003)」(静岡県地学会)
4. 「しずおか文化財ナビ」(静岡県ホームページ)
5. 「日本の地形レッドデータブック第2集ー保存すべき地形ー」(平成14年3月、小泉武栄・青木賢人編)

(3) 活断層の状況

「活断層データベース」(国立研究開発法人産業技術総合研究所ホームページ)によると、調査区域には活断層は存在していません。



出典：「第1回自然環境保全基礎調査 すぐれた自然調査」（昭和51年、環境庁）
「わが国の失われつつある土壌の保全をめざしてーレッド・データ土壌の保全ー」（平成12年3月、日本ペトロロジー学会）
「浜名湖周辺地域産出のナウマンゾウ化石 静岡地学第87号(2003)」（静岡県地学会）
「しずおか文化財ナビ」（静岡県ホームページ）
「日本の地形レッドデータブック第2集ー保存すべき地形ー」（平成14年3月、小泉武栄・青木賢人編）

図 4-1-22 重要な地形及び地質

1.5.動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

(1) 使用文献一覧

動植物の生息及び生育の状況を把握するため、調査区域における確認種を抽出しました。対象地域は静岡県湖西市、浜松市としました。

使用文献の一覧を表 4-1-38(1)～(2)に示します。

表 4-1-38(1) 動物・植物の生息状況の把握に用いた文献・資料

文献 番号	文献名	発行元/発行年	対象 地域	項目									
				哺乳 類	鳥 類	両 生 類	爬 虫 類	魚 類	昆 虫 類	底 生 動 物	ク モ 類	陸 産 貝 類	植 物
1	第 1 回自然環境保全基礎調査 すぐれた自然図	環境庁、昭和 51 年	湖西市、浜松市										
2	第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書	環境庁、昭和 57 年 3 月	湖西市、浜松市	●	●	●		●	●				
3	第 3 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書	環境庁、昭和 63 年	湖西市、浜松市	●	●	●	●	●	●	●		●	
4	第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書	環境庁、平成 5 年	湖西市、浜松市	●	●	●	●	●	●	●		●	
5	第 5 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書	環境省、平成 13～14 年	湖西市、浜松市	●		●	●	●	●	●		●	
6	第 6 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書	環境省、平成 15～16 年	湖西市、浜松市	●	●								
7	まもりたい静岡県の野生生物 2019－静岡県静岡県レッドデータブック<動物編>－	静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、平成 31 年 3 月	湖西市、浜松市	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
8	まもりたい静岡県の野生生物 2020－静岡県静岡県レッドデータブック<植物・菌類編>－	静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、令和 2 年 3 月	湖西市、浜松市										●
9	第 12 次鳥獣保護管理事業計画	静岡県、平成 31 年 3 月	湖西市、浜松市	●	●								
10	ふじのくに生物多様性地域戦略 2018-2027	静岡県、平成 30 年	湖西市、浜松市										●
11	静岡県自然観察ガイドブック 30 湖西連峰	静岡県環境森林部地球環境室、平成 10 年 11 月	湖西市、浜松市						●		●	●	
12	生物多様性はままつ戦略 2018～みんなでツナグ自然の恵み～【資料編】	浜松市、平成 30 年	浜松市	●		●	●			●		●	●

表 4-1-38(2) 動物・植物の生息状況の把握に用いた文献・資料

文献 番号	文 献 名	発行元/発行年	対象 地域	項目									
				哺乳 類	鳥 類	両 生 類	爬 虫 類	魚 類	昆 虫 類	底 生 動 物	ク モ 類	陸 産 貝 類	植 物
13	サイエンスミュージ アムネット	国立科学博物館 HP、閲覧：令和 3 年 2 月	湖西市、 浜松市	●	●			●	●	●	●	●	●
14	東海自然誌ーふじの くに地球環境史ミュ ージアム研究報告ー 第 1 号～第 15 号	ふじのくに地球環 境史ミュージアム HP、閲覧：令和 4 年 5 月	湖西市、 浜松市	●					●	●			●
15	日本のシダ植物図 鑑：分布・生態・分 類	東京大学出版会、 平成 16 年	湖西市、 浜松市										●
16	静岡県の鳥類第 2 版	静岡の鳥編集委員 会、平成 22 年	湖西市、 浜松市		●								
17	静岡県の鳥類第 3 版	静岡の鳥編集委員 会、令和 2 年 6 月	湖西市、 浜松市		●								
18	静岡県産蜂類目録	池田二三高、昭和 51 年	湖西市、 浜松市						●				
19	静岡県産蝶類分布目 録	静岡県昆虫同好 会、平成 15 年	湖西市、 浜松市						●				
20	静岡県の自然環境シ リーズ（哺乳類、淡 水魚類、重要昆虫、 植物群落）	静岡県自然保護 課、昭和 56 年～平 成元年	湖西市、 浜松市	●				●	●	●			●
21	静岡県陸淡水産貝類 相、東海大学自然史博 物館研究報告，(3)， 1-82，	ちりばたん 20(1・ 2)，43，平成元年	湖西市、 浜松市									●	
22	静岡県植物誌	杉本順一、 昭和 59 年	湖西市、 浜松市										●
23	静岡県産希少植物図 鑑	杉野孝雄、平成 21 年	湖西市、 浜松市										●
24	全国鳥類繁殖分布調 査報告 日本の鳥の 今を描こう 2016- 2021 年	鳥類繁殖分布調査 会、令和 3 年	湖西市、 浜松市		●								
25	全国鳥類越冬分布調 査 2016-2022 年	バードリサーチ・ 日本野鳥の会、令 和 5 年	湖西市、 浜松市		●								
26	ふるさと三ヶ日ガイ ドブック 3 みっかび の野鳥	三ヶ日町教育委員 会、平成 5 年	浜松市		●								
27	ふるさと三ヶ日ガイ ドブック 4 野の花 みっかび	三ヶ日町教育委員 会、平成 6 年	浜松市										●
28	ふるさと三ヶ日ガイ ドブック 5 山の花 みっかび	三ヶ日町教育委員 会、平成 10 年	浜松市										●

注1)「第1回自然環境保全基礎調査 すぐれた自然図」は文献を確認したが、調査区域における動植物の生息・生育情報は確認できなかった。

(2) 動物の生息の状況

1) 動物相の状況

① 哺乳類の概況

調査区域において生息記録のある哺乳類として、ホンドアカネズミ、ホンドタヌキ、ホンドイタチ、ニホンイノシシ、ニホンジカ等を含む 7 目 19 科 48 種が確認されています。

② 鳥類の概況

調査区域において生息記録のある鳥類として、ミサゴやオオタカ等の猛禽類をはじめ、カルガモ、キジバト、ダイサギ、シジュウカラ、ホオジロ等を含む 21 目 61 科 252 種が確認されています。

③ 両生類の概況

調査区域において生息記録のある両生類として、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ヤマアカガエル、モリアオガエル等を含む 2 目 8 科 20 種が確認されています。

④ 爬虫類の概況

調査区域において生息記録のある爬虫類として、クサガメ、ニホンヤモリ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、ニホンマムシ等を含む 2 目 9 科 15 種が確認されています。

⑤ 魚類の概況

調査区域において生息記録のある魚類として、ニホンウナギ、オイカワ、ドジョウ、ミナミメダカ、ボウズハゼ等を含む 13 目 35 科 103 種が確認されています。

⑥ 昆虫類の概況

調査区域において生息記録のある昆虫類として、シオカラトンボ、ショウリョウバッタ、アゲハ、ノコギリクワガタ、ゲンジボタル等を含む 11 目 107 科 782 種が確認されています。

⑦ 底生動物の概況

調査区域において生息記録のある底生動物として、ヒメタニシ、カワニナ、マメシジミ、ヤマトヌマエビ、モクズガニ等を含む 15 目 62 科 101 種が確認されています。

⑧ その他の動物

(a) クモ類の概況

調査区域において生息記録のあるクモ類として、ジグモ、カネコトタテグモ、アケボノユウレイグモ、オニグモ、エンシュウナミハグモ等を含む 1 目 8 科 16 種が確認されています。

(b) 陸産貝類の概況

調査区域において生息記録のある陸産貝類として、トウカイヤマトガイ、ミカワギセル、ヤマナメクジ、ヒメカサキビ、トウカイビロウドマイマイ等を含む 3 目 22 科 101 種が確認されています。

2) 動物の重要な種及び注目すべき生息地の状況

動物の重要な種の選定基準を表 4-1-39(1)～(2)に示します。

表 4-1-39(1) 動物の重要な種の選定基準

動物の重要な種の選定基準		
1	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：令和 3 年 4 月 23 日法律第 22 号）に基づく天然記念物及び特別天然記念物	・ 特別天然記念物（特天） ・ 天然記念物（天）
2	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 法律第 75 号、最終改正：令和元年 6 月 14 日法律第 37 号）及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」（平成 5 年 政令第 17 号、最終改正：令和 2 年 12 月 16 日政令第 352 号）に基づく国内希少野生動植物種等	・ 国内希少野生動植物種（国内） ・ 緊急指定種（緊急）
3	「静岡県希少野生動植物保護条例」（平成 23 年 4 月 1 日静岡県条例第 37 号）に基づく指定希少野生動植物種	・ 県指定種（県指）
4	「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」（昭和 48 年 3 月 30 日愛知県条例第 3 号、最終改正：平成 22 年 3 月 26 日愛知県条例第 12 号）に基づく指定希少野生動植物種	・ 県指定種（県指）
5	「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年 3 月）の掲載種	・ EX：絶滅 ・ EW：野生絶滅 ・ CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 ・ CR：絶滅危惧ⅠA類 ・ EN：絶滅危惧ⅠB類 ・ VU：絶滅危惧Ⅱ類 ・ NT：準絶滅危惧 ・ DD：情報不足 ・ LP：絶滅のおそれのある地域個体群
6	「静岡県版レッドリスト 2020」（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課、令和 2 年 3 月）の掲載種	・ EX：絶滅 ・ EW：野生絶滅 ・ CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 ・ CR：絶滅危惧ⅠA類 ・ EN：絶滅危惧ⅠB類 ・ VU：絶滅危惧Ⅱ類 ・ NT：準絶滅危惧 ・ DD：情報不足 ・ LP：地域個体群 要注目種：（静岡県独自の 카테고리） ・ N-I：現状不明 ・ N-II：分布上注目種等 ・ N-III：部会注目種
7	「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2020-動物編-」（愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和 2 年 3 月）の掲載種	・ EX：絶滅 ・ EW：野生絶滅 ・ CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 ・ CR：絶滅危惧ⅠA類 ・ EN：絶滅危惧ⅠB類 ・ VU：絶滅危惧Ⅱ類 ・ NT：準絶滅危惧 ・ DD：情報不足 ・ LP：地域個体群

表 4-1-39(2) 動物の重要な種の選定基準

動物の重要な種の選定基準		
8	「静岡県立自然公園条例」（昭和 36 年 10 月 4 日静岡県条例第 53 号、最終改正：令和元年 10 月 25 日静岡県条例第 15 号）に基づく浜名湖県立自然公園の特別地域で捕獲や採取等を規制する動植物	・ ○：静岡指定
9	「環境省海洋生物レッドリスト」（環境省、平成 29 年 3 月）の掲載種	・ EX：絶滅 ・ EW：野生絶滅 ・ CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 ・ CR：絶滅危惧ⅠA類 ・ EN：絶滅危惧ⅠB類 ・ VU：絶滅危惧Ⅱ類 ・ NT：準絶滅危惧 ・ DD：情報不足 ・ LP：絶滅のおそれのある地域個体群

① 哺乳類の重要な種

調査区域において確認記録のある哺乳類の重要な種はノレンコウモリ、ヤマネ等の 6 目 11 科 26 種で、表 4-1-40 に示すとおりです。

なお、哺乳類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-40 文献により確認された哺乳類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	モグラ	トガリネズミ	カワネズミ						NT	VU		
2		モグラ	アズマモグラ							VU		
3	コウモリ	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ						NT	NT		
4			キクガシラコウモリ						NT	NT		
5		ヒナコウモリ	ヒメホオヒゲコウモリ						N-II			
6			モモジロコウモリ						NT	VU		
7			クロホオヒゲコウモリ					VU	DD			
8			ノレンコウモリ					VU	VU	CR		
9			ヒナコウモリ						DD	EN		
10			チチブコウモリ					LP	VU	CR		
11			ウサギコウモリ						DD			
12			コテングコウモリ						DD	CR		
13			テングコウモリ						DD	EN		
14	ウサギ	ウサギ	ノウサギ							NT		
15	ネズミ	リス	ニホンリス						N-III	NT		
16			ホンドモモンガ						DD	EN		
17			ムササビ						NT	NT		
18		ヤマネ	ヤマネ	天					DD	NT		
19		ネズミ	スミスネズミ							NT		
20			ハタネズミ						N-III	NT		
21			カヤネズミ						NT	VU		
22	ネコ	クマ	ツキノワグマ							CR		
23		イタチ	ホンドテン							NT		
24			オコジョ						DD			
25			ニホンアナグマ							DD		
26	ウシ	ウシ	カモシカ	特天								
計	6目	11科	26種	2種	0種	0種	0種	3種	19種	21種	0種	0種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査（（公）リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

② 鳥類の重要な種

調査区域において確認記録のある鳥類の重要な種は、チュウヒ、コノハズク等の 16 目 36 科 111 種で、表 4-1-41(1)～(3)に示すとおりです。

なお、鳥類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-41(1) 文献により確認された鳥類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準										
				1	2	3	4	5	6	7			8	9
										越冬	繁殖	通過		
1	キジ	キジ	ウズラ					VU	VU	EN				
2			ヤマドリ					NT						
3	カモ	カモ	ヒシクイ	天				VU						
4			カリガネ				EN							
5			コクガン	天			VU							
6			ツクシガモ				VU							
7			オシドリ				DD			NT				
8			トモエガモ				VU	VU	VU					
9			シノリガモ					NT	VU					
10			ビロードキンクロ						EN					
11			クロガモ						NT					
12			ミコアイサ					NT						
13			カワアイサ							NT				
14	カイツブリ	カイツブリ	アカエリカイツブリ							EN				
15			ミミカイツブリ							NT				
16	コウノトリ	コウノトリ	コウノトリ	特天	国内			CR						
17	カツオドリ	ウ	ヒメウ					EN		NT				
18	ペリカン	サギ	サンカノゴイ					EN	EN			EN		
19			ヨシゴイ				NT	EN		CR	CR			
20			ミゾゴイ				VU	EN		EN	VU			
21			ゴイサギ					N-III						
22			ササゴイ					EN						
23			チュウサギ				NT							
24			クロサギ						EN					
25			カラシラサギ				NT				NT			
26		トキ	クロツラヘラサギ		国内			EN		VU				
27	ツル	クイナ	シマクイナ		国内			EN						
28			クイナ					NT	NT					
29			ヒクイナ				NT	VU		NT	NT			
30			バン						NT	VU				
31	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ								VU	NT		
32			ツツドリ							VU	NT			
33			カッコウ							VU	NT			
34	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ					NT	VU		EN	VU		
35	チドリ	チドリ	タゲリ						NT					
36			ケリ				DD							
37			イカルチドリ					NT	NT	VU				
38			シロチドリ				VU	VU	VU	VU				
39		セイタカシギ	セイタカシギ					VU	NT	VU	EN			
40		シギ	ヤマシギ						DD	NT				
41			アオシギ							VU				

表 4-1-41(2) 文献により確認された鳥類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準										
				1	2	3	4	5	6	7			8	9
										越冬	繁殖	通過		
42	(チドリ)	(シギ)	オオハシシギ						N- II	EN				
43			オグロシギ					VU				EN		
44			オオソリハシシギ					VU	VU			EN		
45			コシャクシギ					EN				VU		
46			ダイシャクシギ						VU	VU				
47			ホウロクシギ					VU	VU			EN		
48			ツルシギ					VU	EN			EN		
49			アカアシシギ					VU	VU			VU		
50			コアオアシシギ						VU					
51			タカブシギ					VU	VU			EN		
52			メリケンキアシシギ									EN		
53			オバンシギ									VU		
54			ミユビシギ						NT	NT				
55			オジロトウネン						VU			VU		
56			ヒバリシギ						VU					
57			ウズラシギ						VU			EN		
58			ハマシギ					NT	VU	VU				
59			キリアイ						VU			EN		
60			エリマキシギ									VU		
61			タマシギ	タマシギ					VU	VU	EN	EN		
62		ツバメチドリ	ツバメチドリ					VU			CR	EN		
63		カモメ	オオセグロカモメ					NT						
64			コアジサシ					VU	EN		EN	VU		
65		ウミスズメ	カンムリウミスズメ	天					VU	CR				
66	タカ	ミサゴ	ミサゴ					NT	N-III		NT			
67		タカ	ハチクマ					NT	VU		VU	NT		
68			オジロワシ	天	国内			VU	EN					
69			オオワシ	天	国内			VU	N- II					
70			チュウヒ		国内			EN	EN	VU	CR			
71			ハイイロチュウヒ						N- II	EN				
72			ツミ								NT			
73			ハイタカ					NT	VU					
74			オオタカ					NT	NT	NT	NT			
75			サシバ					VU	VU		EN	NT		
76			クマタカ		国内			EN	VU	EN	EN			
77	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク						DD	NT	VU			
78			コノハズク				県指		EN		CR	VU		
79			フクロウ						NT	NT	NT			
80			アオバズク						VU		EN	VU		
81			トラフズク						DD					
82			コミミズク						EN	VU				
83	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン						VU		VU	NT		
84			ヤマセミ					EN	EN	CR				
85		ブッポウソウ	ブッポウソウ					EN	CR		EN	VU		
86	キツツキ	キツツキ	アリスイ						NT					
87			オオアカゲラ						NT	NT	VU			

表 4-1-41(3) 文献により確認された鳥類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準										
				1	2	3	4	5	6	7			8	9
										越冬	繁殖	通過		
88	ハヤブサ	ハヤブサ	コチョウゲンボウ						N-III					
89			ハヤブサ		国内			VU	VU	NT	VU			
90	スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ		国内			EN	EN		CR	VU		
91		サンショウクイ	サンショウクイ					VU	EN					
92		カササギヒタキ	サンコウチョウ						NT					
93		ツバメ	コシアカツバメ						VU					
94		ムシクイ	イイジマムシクイ	天				VU	VU					
95		センニュウ	ウチャマセンニュウ					EN	VU					
96			オオセッカ		国内			EN	EN	EN				
97		キバシリ	キバシリ							NT	VU			
98		ミソサザイ	ミソサザイ								NT			
99		カワガラス	カワガラス							VU	VU			
100		ヒタキ	マミジロ						VU		EX	NT		
101			アカハラ								CR			
102			アカコッコ	天	国内			EN	DD					
103			コマドリ								CR	NT		
104			コルリ								NT			
105			ノビタキ						N- II					
106			コサメビタキ						VU		NT			
107		セキレイ	ビンズイ								EX			
108		ホオジロ	ホオアカ								CR			
109			ミヤマホオジロ						NT					
110			ノジコ					NT			EX	VU		
111			コジュリン					VU	VU	VU				
計	16目	36科	111種	8種	11種	0種	1種	52種	72種	37種	43種	34種	0種	0種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査（（公）リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

③ 両生類の重要な種

調査区域において確認記録のある両生類の重要な種はアカイシサンショウウオ、ナガレタゴガエル等の2目5科14種で、表4-1-42に示すとおりです。

なお、両生類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-42 文献により確認された両生類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	有尾	サンショウウオ	アカイシサンショウウオ		国内			EN	CR	CR		
2			ヒガシヒダサンショウウオ		国内			VU	VU	NT		
3			ハコネサンショウウオ						VU	NT		
4		イモリ	アカハライモリ					NT	NT	NT ^{注3)}		
5	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル						N-III			
6		アカガエル	タゴガエル						N-III			
7			ナガレタゴガエル				県指		DD	CR		
8			ニホンアカガエル						VU		○	
9			ネバタゴガエル						N-III			
10			トノサマガエル					NT	NT			
11			ナゴヤダルマガエル					EN	CR	VU		
12			ツチガエル						NT			
13		アオガエル	モリアオガエル						NT	NT		
14			カジカガエル						NT	NT		
計	2目	5科	14種	0種	2種	0種	1種	5種	14種	8種	1種	0種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査（(公)リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

注3) アカハライモリ中間種族：NTに該当する。

④ 爬虫類の重要な種

調査区域において確認記録のある爬虫類の重要な種はニホンイシガメ、ニホンスッポン等の2目6科8種で、表4-1-43に示すとおりです。

なお、爬虫類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-43 文献により確認された爬虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ					NT	NT	NT		
2			クサガメ						N-III			
3		スッポン	ニホンスッポン					DD	DD	DD		
4	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ						N-III			
5		トカゲ	ヒガシニホントカゲ						N-II			
6		タカチホヘビ	タカチホヘビ							DD		
7		ナミヘビ	シロマダラ						DD	DD		
8			ヤマカガシ							DD		
計	2目	6科	8種	0種	0種	0種	0種	2種	6種	5種	0種	0種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査（（公）リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

⑤ 魚類の重要な種

調査区域において確認記録のある魚類の重要な種はヤリタナゴ、カワバタモロコ等の9目19科56種で、表4-1-44(1)～(2)に示すとおりです。

なお、魚類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-44(1) 文献により確認された魚類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ北方種					VU	EN			
2			スナヤツメ南方種					VU	EN			
-			スナヤツメ類					VU	EN	EN		
3	カライワシ	イセゴイ	イセゴイ						N-III			
4	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ					EN	EN	EN		
5			オオウナギ						N-III			
6	コイ	コイ	ゲンゴロウブナ					EN				
7			ヤリタナゴ			県指		NT	CR	CR		
8			アブラボテ					NT	DD	DD		
9			イチモンジタナゴ					CR		DD		
10			ゼニタナゴ					CR				
11			カワバタモロコ		国内	県指		EN	CR	EN		
12			ハス					VU				
13			カワムツ						N-II			
14			タカハヤ						N-II			
15			ウグイ									
16			タモロコ						N-II			
17			イトモロコ							NT		
18			スゴモロコ					VU				
19		ドジョウ	ドジョウ					NT	DD	VU		
20			ニシシマドジョウ						N-II	VU		
21			ヒガシシマドジョウ						N-II			
22			トウカイコガタスジシマドジョウ					EN	EN	EN		
23		フクドジョウ	ホトケドジョウ					EN	EN	EN		
24			ナガレホトケドジョウ					EN				
25			トウカイナガレホトケドジョウ					EN	EN	EN		
26	ナマズ	アカザ	アカザ					VU	EN	NT		
27	サケ	シラウオ	イシカワシラウオ						VU			
28		サケ	ヤマトイワナ						CR			
29			サツキマス (アマゴ)					NT	VU	DD		
30	トゲウオ	ヨウジウオ	ガンテンイシヨウジ						N-III			
31			イッセンヨウジ						N-III			
32			テングヨウジ						N-III			
33	ダツ	メダカ	ミナミメダカ					VU	VU	VU		
34		サヨリ	クルマサヨリ					NT	DD	DD		
35	スズキ	アカメ	アカメ					EN	N-III			
36		クロサギ	ヤマトイトヒキサギ									DD
37		ユゴイ	ユゴイ						N-III			

表 4-1-44(2) 文献により確認された魚類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
38	(スズキ)	カジカ	カマキリ					VU	VU	EN		
39			カジカ					NT	NT	EN		
40			ウツセミカジカ (回遊型)					EN	VU	VU		
41		ドンコ	ドンコ							EN		
42		カワアナゴ	カワアナゴ						N-III	NT		
43			チチブモドキ						N-III			
44			オカメハゼ						N-III			
45		ハゼ	イドミミズハゼ					NT				
46			ヒモハゼ					NT	VU	VU		
47			チワラスボ属の1種C					EN	EN			
48			トビハゼ					NT	CR	VU		
49			ボウズハゼ							VU		
50			ノボリハゼ						N-III			
51			ヒナハゼ						N-III			
52			クロコハゼ						N-III			
53			カワヨシノボリ						N-II			
54			オオヨシノボリ							NT		
55			ビリング						N-II			
56			エドハゼ					VU	NT	NT		
計	9目	19科	56種	0種	1種	2種	0種	29種	43種	26種	0種	1種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査（(公) リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

注3) スナヤツメ類は、スナヤツメ北方種またはスナヤツメ南方種に該当するため、種数にカウントしなかった。

⑥ 昆虫類の重要な種

調査区域において確認記録のある昆虫類の重要な種はベッコウトンボ、ヒメヒカゲ本州中部亜種等の 8 目 53 科 156 種で、表 4-1-45(1)～(4)に示すとおりです。

なお、調査区域内で詳細な位置を特定できた重要な昆虫類は、ヨツボシトンボ、ハッチョウトンボの 2 種です。確認位置は図 4-1-23 に示すとおりです。

表 4-1-45(1) 文献により確認された昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	トンボ	アオイトトンボ	ホソミオツネイトンボ						NT			
2			コバネアオイトトンボ					EN	CR	CR		
3			オツネイトンボ						NT			
4		イトトンボ	ベニイトトンボ					NT	CR	VU		
5			ヒヌマイイトトンボ					EN	CR	EN		
6			モートンイトトンボ					NT	VU	NT		
7			オオイトトンボ						CR	EN		
8		モノサシトンボ	グンバイトンボ					NT	CR	EN		
9		カワトンボ	アオハダトンボ					NT	NT			
10			ニホンカワトンボ						EN			
11		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ					NT	NT	NT		
12			アオヤンマ					NT	VU	EN		
13			カトリヤンマ						NT			
14		サナエトンボ	キイロサナエ					NT	EN	NT		
15			ホンサナエ						VU			
16			タベサナエ					NT	VU			
17			フタスジサナエ					NT	EN	VU		
18			コサナエ						VU	EN		
19		エゾトンボ	トラフトンボ						EN	NT		
20			キイロヤマトンボ					NT	CR	NT		
21			ハネビロエゾトンボ					VU	VU	VU		
22			エゾトンボ						CR	VU		
23		トンボ	ベッコウトンボ		国内			CR	CR	CR		
24			ヨツボシトンボ						NT			
25			ハッチョウトンボ						EN			
26			キトンボ						CR	EN		
27			ノシメトンボ							NT		
28			マイコアカネ						NT			
29			マダラナニワトンボ					EN	N- I	CR		
30			オオキトンボ					EN	CR	CR		
31	ゴキブリ	オオゴキブリ	オオゴキブリ							NT		
32	カマキリ	カマキリ	ウスバカマキリ					DD	DD			
33	バッタ	クツワムシ	タイワンクツワムシ							NT		
34		キリギリス	スルガツコムシモドキ						N-III			
35		マツムシ	クチキコオロギ							NT		
36		コオロギ	オオオカメコオロギ						DD			
37			クチナガコオロギ						NT			
38												
39		ヒバリモドキ	ハマスズ						NT	EN		
40		バッタ	ヤマトマダラバッタ						NT	NT		
41												
42		イナゴ	ハネナガイナゴ						N-III			
			カケガワフキバッタ						NT			
			テカリダケフキバッタ						DD			

表 4-1-45(2) 文献により確認された昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
43	(バッタ)	(イナゴ)	セグロイナゴ						N-III			
44	カメムシ	アメンボ	オオアメンボ							NT		
45			エサキアメンボ					NT	N-III	NT		
46			ババアメンボ					NT	DD	VU		
47		ミズムシ (昆)	ミゾナシミズムシ					NT	N-III			
48			ホッケミズムシ					NT	VU	DD		
49			ミヤケミズムシ					NT	NT			
50		コオイムシ	コオイムシ					NT	N-III			
51			タガメ		国内			VU	N-III	EN		
52		タイコウチ	タイコウチ							DD		
53			ヒメタイコウチ						DD	NT		
54			ミズカマキリ							DD		
55		ナベブタムシ	ナベブタムシ							NT		
56	チョウ	セセリチョウ	ホソバセセリ							NT		
57			ギンイチモンジセセリ					NT	N- II	NT		
58			コキマダラセセリ						N- II	VU		
59			ミヤマチャバネセセリ							EN		
60			オオチャバネセセリ						N- II			
61			チャマダラセセリ					EN	EX	CR		
62			スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種					NT	EX	EN		
63			ヘリグロチャバネセセリ						CR			
64		シジミチョウ	オナガシジミ						N- II	NT		
65			オオミドリシジミ							NT		
66			ベニモンカラスシジミ					NT	EN			
67			ウラクロシジミ						NT	VU		
68			ウラナミアカシジミ						VU			
69			クロシジミ					EN	VU	CR		
70			ミヤマシジミ					EN	VU			
71			フジミドリシジミ						N-III	VU		
72			クロツバメシジミ東日本亜種					NT	VU	EN		
73		タテハチョウ	コムラサキ						N- II			
74			ウラギンスジヒョウモン					VU	NT	VU		
75			オオウラギンスジヒョウモン							NT		
76			ヒメヒカゲ本州中部亜種			県指	県指	EN	CR	EN	○	
77			クモマベニヒカゲ本州亜種					NT	N- II			
78			ベニヒカゲ本州亜種					NT	N- II			
79			ツマジロウラジャノメ本州亜種						NT	DD		
80			クロヒカゲモドキ					EN	N- II	EN		
81			ウラジャノメ本州亜種						NT	EN		
82			ヒメジャノメ						N-III			
83			サトキマダラヒカゲ						N-III			
84			クモガタヒョウモン						NT			
85			オオミスジ						N- II			

表 4-1-45(3) 文献により確認された昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
86	(チョウ)	(タテハチョウ)	ホシミスジ東北・中部地方亜種						NT			
87			オオヒカゲ						N- I	NT		
88			オオムラサキ					NT	N-III	NT		
89			ギンボシヒョウモン本州亜種						N-III			
90			ウラナミジャノメ本土亜種					VU	EN	VU		
91		アゲハチョウ	ギフチョウ					VU	VU	VU		
92		シロチョウ	クモマツマキチョウハヶ岳・南アルプス亜種					VU	EN			
93			ツマグロキチョウ					EN		NT		
94			スジボソヤマキチョウ							CR		
95			ヒメシロチョウ北海道・本州亜種					EN	VU			
96		ヤママユガ	オナガミズアオ本土亜種					NT				
97		シャチホコガ	カバイロシャチホコ					NT	NT	NT		
98		ヤガ	クビグロケンモン					NT	NT			
99			コシロシタバ					NT	NT			
100			オオチャバネヨトウ					VU	EN	NT		
101	コウチュウ	オサムシ	タナカツヤハネゴミムシ					DD	N-III			
102			リュウガシメクラチビゴミムシ						N- I			
103			オオヒョウタンゴミムシ					NT	NT	VU		
104		ハンミョウ	カワラハンミョウ					EN	VU	EX		
105			アイヌハンミョウ					NT	N-III	NT		
106		ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ					NT	NT	VU		
107			ゲンゴロウ					VU	EN	EN		
108			マルガタゲンゴロウ					VU	N- I	EX		
109			コマルケシゲンゴロウ					NT	NT			
110			オオマルケシゲンゴロウ					NT				
111			ケシゲンゴロウ					NT	N-III			
112			ニセコケシゲンゴロウ					CR	VU			
113			キベリクロヒメゲンゴロウ					NT	NT			
114			コウベツブゲンゴロウ					NT	NT			
115			ルイスツブゲンゴロウ					VU	VU			
116			キタノツブゲンゴロウ					EN	VU			
117			キベリマメゲンゴロウ					NT	N-III			
118		ミズスマシ	オオミズスマシ					NT	VU	NT		
119			ヒメミズスマシ					EN	VU			
120			ミズスマシ					VU	VU	EN		
121			コオナガミズスマシ					VU		NT		
122		コガシラミズムシ	クロホシコガシラミズムシ					VU	DD			
123			コガシラミズムシ						DD			
124		コツブゲンゴロウ	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ					VU	N-III	NT		

表 4-1-45(4) 文献により確認された昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
125	(コウチュウ)	(コツブゲンゴロウ)	キボシチビコツブゲンゴロウ					EN	VU	NT		
126		マルドロムシ	ヤマトマルドロムシ						DD			
127		ガムシ	マルヒラタガムシ					NT	N-III			
128			スジヒラタガムシ					NT	N-III			
129			コガムシ					DD	NT			
130			ガムシ					NT	NT	VU		
131		シデムシ	ヤマトモンシデムシ					NT	N- I	VU		
132		クワガタムシ	ツヤハダクワガタ							EN		
133			ヒメオオクワガタ							EN		
134		コガネムシ	オオチャイロハナムグリ					NT	DD	VU		
135			ヒゲコガネ						NT			
136		ヒメドロムシ	アシナガミゾドロムシ						DD			
137		タマムシ	トゲフタオタマムシ							NT		
138		コメツキムシ	アカアシコハナコメツキ							NT		
139		ホタル	ヘイケボタル						N-III			
140		ゴミムシダマシ	ヤマトオサムシダマシ					NT	NT			
141		カミキリムシ	ヒメビロウドカミキリ					NT	DD	EX		
142			ケブカマルクビカミキリ						DD	NT		
143			オオホソコバネカミキリ							NT		
144			ヒゲブトハナカミキリ							NT		
145			フタコブルリハナカミキリ							NT		
146			ヨツボシカミキリ					EN	VU	EN		
147			アサカミキリ					VU	N-III	EX		
148		ハムシ	ガガブタネクイハムシ						NT			
149			ツヤネクイハムシ						DD			
150		ゾウムシ	ハマベゾウムシ						NT	NT		
151			ハバスゲヒメゾウムシ						DD			
152	ハチ	セイボウ	オオセイボウ					DD				
153		スズメバチ	ヤマトアシナガバチ					DD				
154		クモバチ	スギハラクモバチ					DD				
155			アオスジクモバチ					DD				
156		アナバチ	キゴシジガバチ							NT		
計	8目	53科	156種	0種	2種	1種	1種	84種	127種	87種	1種	0種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査（(公)リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

⑦ 底生動物の重要な種

調査区域において確認記録のある底生動物の重要な種はマルタニシ、マシジミ等の 8 目 22 科 34 種で、表 4-1-46 に示すとおりです。

なお、底生動物については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-46 文献により確認された底生動物の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	古腹足	ニシキウズガイ	イボキサゴ					NT		EN		
2	アマオブネガイ	アマオブネガイ	ヒロクチカノコガイ							VU		
3	新生腹足	タニシ	マルタニシ					VU	NT	NT		
4			オオタニシ					NT	NT			
5		ウミニナ	ウミニナ					NT		NT		
6		トゲカワニナ	タケノコカワニナ					VU	CR	EX		
7		カワニナ	クロダカワニナ					NT	NT	NT		
8		キバウミニナ	フトヘナタリガイ					NT		NT		
9			ヘナタリガイ					NT		NT		
10		ワカウラツボ	カワグチツボ					NT		NT		
11		ミズツボ	カワネミジンツボ					DD	DD			
12		カワザンショウガイ	ヨシダカワザンショウガイ						NT	VU		
13		エゾマメタニシ	マメタニシ					CR	EN	CR		
14		ミズゴマツボ	ウミゴマツボ					NT		NT		
15		タマガイ	サキグロタマツメタガイ					CR+EN				
16	汎有肺	オカミミガイ	オカミミガイ					VU		EN		
17			ウスコミミガイ					NT	VU	VU		
18		モノアラガイ	ヒロクチモノアラガイ					DD				
19			モノアラガイ					NT	NT	DD		
20		ヒラマキガイ	ヒダリマキモノアラガイ					CR+EN	CR	EX		
21			ヒラマキミズマイマイ					DD	NT	NT		
22			クロヒラマキガイ					DD				
23			ミズコハクガイ					VU	VU	VU		
24			ヒラマキガイモドキ					NT	NT	NT		
25		スナガイ	スナガイ					NT		VU		
26	イシガイ	イシガイ	トンガリササノハガイ							CR		
27			イシガイ						NT	CR		
28			マツカサガイ					NT	CR	CR		
29			ドブガイ							NT		
30	マルスダレガイ	フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ					NT				
31		シジミ	ヤマトシジミ					NT	NT			
32			マシジミ					VU	NT	DD		
33	ワラジムシ	ウシオワラジムシ	ニッポンヒイロワラジムシ									DD
34	エビ	オサガニ	ヒメヤマトオサガニ									NT
計	8 目	22 科	34 種	0 種	0 種	0 種	0 種	27 種	17 種	25 種	0 種	2 種

注1) 種名及び配列は「令和3年度河川水辺の国勢調査((公)リバーフロント研究所、令和3年)」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

⑧ その他の動物

(a) クモ類の重要な種

調査区域において確認記録のあるクモ類の重要な種はワスレナグモ、キノボリトタテグモ等の1目6科8種で、表4-1-47に示すとおりです。

なお、クモ類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-47 文献により確認されたクモ類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	クモ	ジグモ	ワスレナグモ					NT	VU	VU		
2		カネコトタテグモ	カネコトタテグモ					NT	NT	VU		
3		トタテグモ	キノボリトタテグモ					NT	NT	VU		
4			キシノウエトタテグモ					NT	NT	VU		
5		ユウレイグモ	アケボノユウレイグモ						N-II	EN		
6		コガネグモ	オニグモ						NT			
7			コガネグモ						NT	NT		
8		ナミハグモ	エンシュウナミハグモ						N-II			
計	1目	6科	8種	0種	0種	0種	0種	4種	8種	6種	0種	0種

注1) 種名及び配列は主に「令和3年度河川水辺の国勢調査（(公)リバーフロント研究所、令和3年）」に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

(b) 陸産貝類の重要な種

調査区域において確認記録のある陸産貝類の重要な種はホウライジギセル、オモイガケナマイマイ等の3目17科47種で、表4-1-48(1)～(2)に示すとおりです。

なお、陸産貝類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-48(1) 文献により確認された陸産貝類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	アマオブネガイ	ゴマオカタニシ	ゴマオカタニシ					NT		NT		
2			ベニゴマオカタニシ				VU	NT	VU			
3		ヤマキサゴ	ヤマキサゴ						VU			
4	新生腹足	ヤマタニシ	トウカイヤマトガイ					VU	DD	VU		
5		ムシオイガイ	ムシオイガイ							NT		
6		カワザンショウガイ	ホラアナゴマオカチグサガイ					CR+EN	NT			
7	汎有肺	オカミミガイ	ケシガイ					NT		DD		
8		オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ					NT	NT	NT		
9		キバサナギガイ	クチマガリスナガイ					VU	NT			
10			ナタネキバサナギガイ				VU	NT	VU			
11			ヤマトキバサナギガイ				VU	VU	EN			
12		マキゾメガイ	ヒラドマルナタネ							NT		
13		キセルガイモドキ	フトキセルガイモドキ							DD		
14			キセルガイモドキ							NT		
15		キセルガイ	オオギセル					NT				
16			ホウライジギセル					CR+EN	EN	CR		
17			ミカワギセル					NT		NT		
18			オクガタギセル					NT	NT	NT		
19			ホソヤカギセル					NT		NT		
20			ツバクロイワギセル					VU	VU			
21			ハチノコギセル					NT		NT		
22			ツメギセル					NT				
23			チュウゼンジギセル					NT				
24			クビナガギセル					VU		VU		
25			エルベリギセル					DD				
26			ヒメギセル							NT		
27		ナタネガイモドキ	ナタネガイモドキ					NT	NT			
28		オオコウラナメクジ	ヤマコウラナメクジ					NT	DD			
29		ナメクジ	イボイボナメクジ					NT	DD	NT		
30		ベッコウマイマイ	ミドリベッコウ					DD				
31			カントウベッコウ					DD		NT		
32			ヒメハリマキビ					NT		NT		
33			スジキビガイ					NT		NT		

表 4-1-48(2) 文献により確認された陸産貝類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
34	(汎有肺)	(ベッコウマイマイ)	カサネシタラガイ					NT	NT	NT		
35			ウメムラシタラガイ					NT		NT		
36			オオウエキビ					DD				
37			タカキビ					NT		NT		
38			ヒメカサキビ					NT		NT		
39			サドタカキビ					DD	DD			
40		ナンバンマイマイ	ミニビロウドマイマイ					VU	DD	VU		
41			ヒメビロウドマイマイ					VU				
42			キヌビロウドマイマイ					NT				
43		オナジマイマイ	オモイガケナマイマイ		国内		県指	CR+EN	CR	CR		
44			コケラマイマイ					NT				
45			ミヤマヒダリマキマイマイ					VU	NT	VU		
46			ミカワマイマイ					CR+EN	EN	CR		
47			イシマキシロマイマイ					VU	NT	VU		
計	3目	17科	47種	0種	1種	0種	1種	41種	21種	31種	0種	0種

注1) 種名及び配列は主に「日本陸産貝類総目録」(日本陸産貝類総目録刊行会、昭和63年)に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりである。

⑨ 注目すべき生息地の状況

調査区域における注目すべき生息地は表 4-1-49、図 4-1-23 に示すとおりです。
環境省が選定している「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（重要湿地）として、「浜名湖周辺湧水湿地群」、「浜名湖」が分布しています。

表 4-1-49 注目すべき生息地

No	生息域		生物分類群	選定基準・理由	選定基準
1	浜名湖 周辺湧水 湿地群	雨生山南東麓	湿原植生	生物の生育・生息地として典型的又は相当の規模の面積を有している場合。 ミカワバイケイソウ等東海丘陵要素植物の東限に位置するほか、湿生植物の生育地として重要。	2
2		宇利峠西			
3		梅田北湿地			
4	浜名湖		海草・海藻	生物の生育・生息地として典型的又は相当の規模の面積を有している場合。 本州太平洋岸中部の潟湖アマモ場の典型。広大な汽水域に成立したアマモ場。	1
			底生動物	希少種、固有種等が生育・生息している場合。 砂泥底とアマモ場からなる環境に多様なベントスが生息する。イボキサゴが優占し、ナメクジウオやミドリシャミセンガイ、ミサキギボシムシ等が生息する。	2

注1) 選定基準は以下のとおりである。

1. 湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・砂浜・マングローブ湿地、藻場、さんご礁等の生態系のうち、生物の生育・生息地として典型的又は相当の規模の面積を有している場合
2. 希少種、固有種等が生育・生息している場合
3. 多様な生物相を有している場合（ただし、外来種を除く）
4. 特定の種の個体群のうち、相当な割合の個体数が生育・生息する場合
5. 生物の生活史の中で不可欠な地域（採餌場、繁殖場等）である場合

注2) 浜名湖周辺湧水湿地群の個別の湿地位置は、「東海地方の湧水湿地」（2019年 湧水湿地研究会）を参考に調査区域内に位置するものを図示した。

出典：「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（環境省ホームページ）

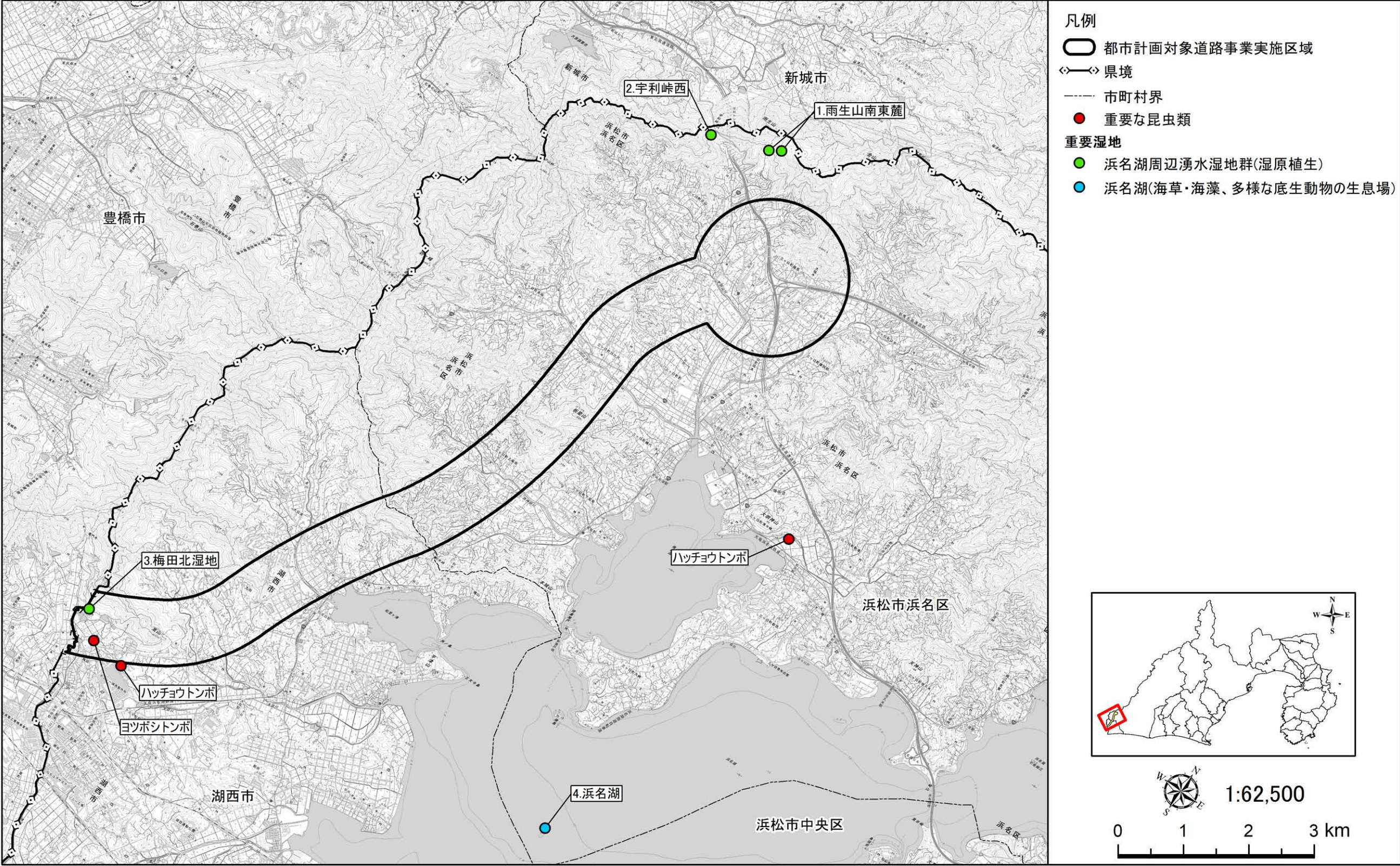


図 4-1-23 文献による重要な動物確認位置及び注目すべき生息地の位置図